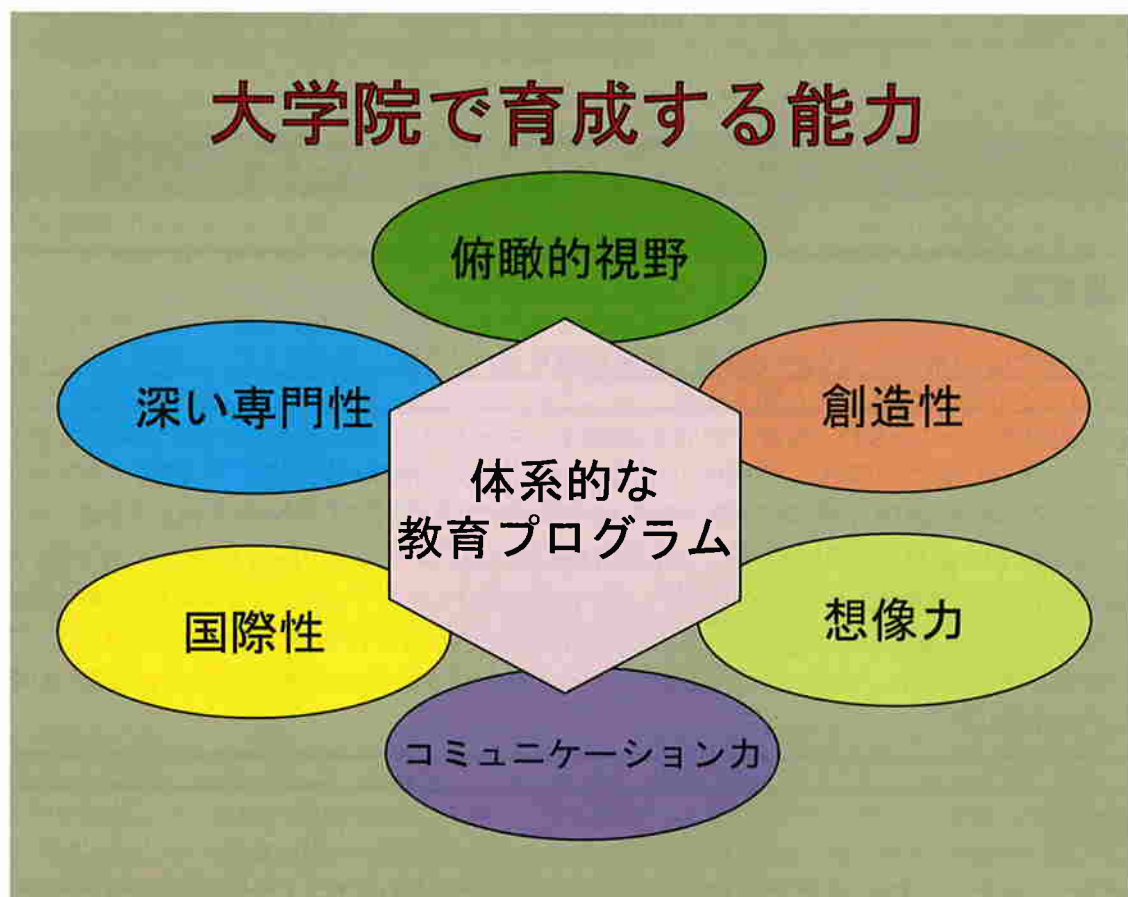


平成21年度大学院進学希望者の皆さんへ

茨城大学大学院が変わります

- 広い視野と深い専門知識を学べる体系的カリキュラム
- 人文科学研究科と理工学研究科の専攻改組
- 専攻・コース・プログラム制による教育プログラムの多様化
- 職業や社会生活、博士課程進学的基础を固める実践的教育



新制度 1 大学院共通科目の導入

(1) 大学院共通科目とは

これからの社会では、様々な問題解決のために、文系理系を問わずこれまで以上に高い知的能力が必要とされます。茨城大学大学院では、そうした知識基盤社会を支える人材の育成をめざして、大学院教育カリキュラムを体系化します。その一環として大学院共通科目を導入します。

平成21年度以降大学院に入学した学生は、専攻科目と共に、大学院共通科目を履修(選択必修)し、広い視野とコミュニケーション力、創造性、想像力などを育成する教育プログラムに参加することになります。共通科目には、科学倫理やより進んだ語学力、学術情報リテラシーなど実践的科目が含まれており、大学院卒業後の職業生活や社会生活の基礎を固めることができます。

共通科目には、全学共通科目と研究科共通科目があります。

- ①全学共通科目:茨城大学の総合性を発揮し、文理を超えた幅広い学識と俯瞰的視野、高度職業人としての素養を涵養するために開講する科目です。
- ②研究科共通科目:より専門に近い領域での共通科目で、研究科毎に設定します。

(2) 予定されている全学共通科目

以下は現在予定されている全学共通科目で、今後、さらに充実した科目リストを提供する計画です。

地球環境システム論 I	持続社会システム論 I	人間システム基礎論 I
人文社会科学基礎論 I	人文社会科学基礎論 II	実践学術英語
国際コミュニケーション特論	学校教育基礎論	科学と倫理
海外とものづくりアライアンス特論	実学的産業特論	バイオインフォマティクス
産業創成方法論	知的所有権特論	学術情報リテラシー

新制度 2 魅力アップする研究科の教育カリキュラム

人文科学研究科

人文科学研究科では、4専攻を文化科学専攻と地域政策専攻の2専攻に改編します(文部科学省の審査後に正式決定になります)。文化科学専攻には人間文化コースとコミュニケーションコースを、地域政策専攻には国際社会経済コースと地域法政策コースを設け、複数の科目が連携するコースとして養成する人材像を定めて、組織的で体系的なカリキュラムを構築します。同時に、実践的で応用能力を具えた、地域・社会に貢献できる人材の育成を通じて地域・社会のニーズに応えるため、新たに「コミュニティ・マネジャー養成プログラム」を導入します。

コミュニティ・マネジャー養成プログラム:コミュニティ・デザインをキーワードに、地域をテーマにした教育プログラムの学修や、実社会におけるコミュニティ・インターンシップの経験をとおして、新たなライフスタイルや地域のあり方をデザインする発想と技能を身につけ、地域・社会との関係において生活や仕事を主体的に構想し、より良い地域や文化のあり方を自主的に追求し、デザインすることができる人材(コミュニティ・マネジャー)を、地域の行政、企業、市民と連携しながら養成します。

教育学研究科

教育学研究科では幅広い視野と高度の専門性を深めるために、平成21年度より全学共通科目と研究科共通科目を設定します。また、教育学研究科でも全学共通科目を開講し、教育に関する最新のトピックスや課題についてより広い範囲の大学院生に向け発信していきます。

理工学研究科<理学系>

理工学研究科博士前期課程においては、理学系の数理科学、自然機能科学、地球生命環境科学専攻の3専攻を理学専攻1専攻として、数学・情報数理系、物理系、化学系、生物系、地球環境系の5系に改組する予定です(文部科学省の審査後に正式決定になります)。

理学専攻では、「高度専門職業人」と「研究者」を育成します。具体的には、社会の進歩・発展に貢献し、活力ある持続社会を創り上げる次のような人材を育成します。

- ①国際性を有し、産官学連携に基づくイノベーションシステムの構築において、中心的役割を担う人材
- ②先端研究を推進する力を有する博士後期課程進学者
- ③人文・社会系分野の基礎的理解力(リテラシー)をあわせもつ高度専門職業人としての理系専門家

上記のような人材を確実に育成するために、次のような特色ある教育を行います。

- ①専門分野の深い知識や研究能力のみならず、関連領域、学際領域を含めた幅広い知識や社会の変化に対応できる素養を身に付けさせる教育を行います。
- ②組織的に多様なコースワークの充実を図ります。特に、授業、演習、実験、実習を有機的に関連させ、博士前期課程学生に相応しい高度な専門知識を修得させます。1専攻とすることで、他分野(他の系)の科目の導入など複合的な履修取組を容易にします。
- ③コースワークを中心としたプロフェッショナルサイエンスマスター(PM)の導入等、新時代の大学院教育に対応したカリキュラムを構築します。PMプログラムでは、理系の幅広い専門知識を備えるとともに、人文、社会系分野の基礎的理解力(リテラシー)を十分に備えた人材の育成を、コースワーク並びに連携機関における実習も大きく取り込んだ「課題特別研究」をもって実現します。
- ④特別教育プログラム(サステナビリティ学特別教育プログラム)を設け、環境問題に関する学際的、俯瞰的知識探求心の向上を図ります。

理工学研究科<工学系>

地球時代・国際化時代に必要とされる広い俯瞰的な視野と探求心、創造性を育成する体系的なカリキュラムを実現します。また複数領域の履修を可能にする特色ある横断的教育プログラムを設けます。

- ①社会的なニーズに対応して、システム工学専攻に替わり、知能システム工学専攻がスタートします(文部科学省の審査後に正式決定になります)。また、物質工学専攻に、生体分子機能コースとマテリアル工学コースを設けます。
- ②特別教育プログラム(サステナビリティ学特別教育プログラム、4大学院連携先進創生情報学教育プログラム、原子力工学教育プログラム)により、一つの専門性にとどまらず、分野横断的な新しい領域を学ぶことができます。
- ③コミュニケーション力やプレゼンテーション力などの社会人基礎力を身につけるように共通科目を増やします。
- ④1単位の講義を増やし、講義と演習・実習を組み合わせた効果的な履修が可能になります。

農学研究科

農学は、生命、環境、食料をトータルに考える科学で、その総合的な思考が、明日の地球を考える時代には必要となっています。農学研究科では、これまで、研究科共通科目を設定して総合的視野の育成を図り、クォーター制を導入して幅広い科目を受講できるシステムを作ってきました。一方、専門性の面では、複数教員による確かな指導体制によって、国内外の学会で研究発表できる水準の研究基礎力を育ててきました。

農学研究科はさらに新しい方向性をめざしています。

- ①地域性と国際性の融合の一環として「地域サステナビリティの実践農学教育」(平成19年度、文部科学省大学院GPに採択)を新たに構築しました。本教育プログラムでは、自然と共生してきた先人の知恵と考え方の上に最先端の科学を駆使して、地域の課題解決につながる技術的および政策的な思考力の育成をめざします。さらに、日本と同じように稲作農業が国の基盤となっているインドネシアの問題も考えます。国際性は、外国人教員による授業科目、「英語表現セミナー」、「アジア農業論」、「地球環境化学特論」でも培います。
- ②JICA筑波連携修士課程コース「環境共生農学コース」(平成20年度10月入学、外国人留学生向け)も始まります。農学研究科は、国際的なキャンパス環境のなかで、地球の未来につながる地域社会の新しい歩み方と、生命、環境、食料に関する技術開発力の育成を追究します。

新制度3 俯瞰的知識や実践力を学ぶ特別プログラム

(1) サステナビリティ学教育プログラム

本プログラムは、全学横断型の教育プログラムです。低炭素社会や循環型社会、自然との共生など持続可能な社会を作るための幅広い知識と専門知識の両方をもった専門家の育成を目指しており、東京大学など10大学が参加する「サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)」と連携した教育に特色があります。授業は、俯瞰的基盤科目群、実践型演習群、専攻科目群で構成されます。

理工学研究科の都市システム工学専攻にサステナビリティ学コースを設置するほかに、全ての研究科で横断型副専攻プログラムを開設します。横断型副専攻プログラムでは、上記科目群の①と②から6単位、③から4単位を履修することで、「修了認定証」を発行する予定です。詳しくは研究科毎に問い合わせください。

(2) 4大学院連携先進創生情報学教育研究プログラム

21世紀を迎えた今、インターネットと情報技術の融合技術であるICT(Information and Communication Technology: 情報通信技術)は世界中の様々な分野で必要不可欠な社会基盤になっており、国際的な舞台上で活躍できる人材養成が切望されています。茨城大学、宇都宮大学、群馬大学、埼玉大学の4大学は、共同でICT関連技術者養成プログラムを申請し、平成20年4月に正式に文部科学省の認可を受けて発足しました。本プログラムは理工学研究科博士前期課程情報工学専攻(他2、3の専攻が検討中)に入学した学生から希望者を募り、その中から4名程度を選抜して下記2コースへの参加が認められます。いずれも社会的ニーズを先取りつつ、ICT(情報通信技術)とそれを応用したシステム開発や情報サービス・ビジネスモデル開発を、より実践的なかたちで学ぶことができる独自の教育研究プログラムです。

- ①人間創生情報学コース:平成20年度に開設。組込みシステム、組込みソフトウェアならびにリアルタイムシステム技術の習得を中心に、人間生活に密着したICT技術とその応用による生活シーンの開拓のできる専門的人材育成とプロジェクト管理者の育成を目的としたプログラムです。
- ②社会創生情報学コース:平成21年度に開設予定。エンタープライズシステム分野と情報サービス分野の企画開発力の習得を中心に、情報社会がもたらす恩恵や豊かさを実際のシステムとして具現化できる能力を備えた開発技術者やプロジェクト管理者の育成を目的としたプログラムです。

(3) 原子力工学教育プログラム

近年、原子力は地球環境問題やエネルギー問題を解決するための中心技術として再注目されています。本プログラムは、その原子力工学に関する知識を体系的に学習するための教育プログラムです。学部段階で、機械工学、電気工学、あるいは材料工学の基礎を学んできた大学院博士前期課程の学生を対象としています。

原子力工学関連の講義、実験・実習の学習を通して、原子力工学分野の技術者、あるいは各自の専門分野に加えて原子力工学分野の基礎知識を備えた技術者を育成することを目標にしています。このため、原子力工学関連の講義を受講するとともに、原子力施設が近隣に立地していることを活用して、連携機関との緊密な協力の下で、学内外での実験・実習を充実させ、教育内容を十分に理解・活用することができる学習カリキュラムを提供します。また、国内の原子力教育課程を有する他大学と光通信を通じて同時に共通講義を受ける遠隔授業システムも導入しています。

(4) 人文科学研究科のコミュニティ人材養成プログラム

コミュニティ・マネジャー養成プログラムは、コミュニティ・デザイン開発とコミュニティ・インターンシップを基盤科目とし、分野別に系統化された自治体改革支援、社会起業家育成支援、多世代交流コーディネーター育成支援、コミュニティ・ケア・ワーカー育成支援、人文社会系サステナビリティ学のサブ・プログラムから編成され、プログラムの修了認定に必要な単位を取得した学生には、研究科長より教育プログラム認定書(履修証明書)が交付されます。

入試日程一覧

※入学試験の詳細については各研究科の募集要項を必ずご確認ください。

研究科	出願期間	入試日	合格発表
人文科学研究科(地域政策専攻以外)	平成21年1月19日～1月26日	平成21年2月27日	平成21年3月6日
人文科学研究科(地域政策専攻)	平成20年10月1日～10月8日	平成20年11月5日	平成20年11月26日
教育学研究科	平成20年10月14日～10月24日	平成20年11月5日	平成20年12月1日
理工学研究科(理学系)	推薦選抜	平成20年9月1日～9月3日	平成20年9月8日
	一般選抜	平成20年9月22日～9月26日	平成20年10月4日
理工学研究科(工学系:知能システム工学専攻以外及び応用粒子線科学専攻)	推薦選抜	—	平成20年7月1日
	一般選抜	平成20年7月28日～7月31日	平成20年8月28日・29日
理工学研究科(工学系:知能システム工学専攻)	推薦選抜	平成20年9月1日～9月3日	平成20年9月8日
	一般選抜	平成20年9月22日～9月26日	平成20年10月4日
農学研究科	平成20年7月9日～7月15日	平成20年8月6日	平成20年8月29日

注)研究科・専攻によっては2次募集を実施する場合がありますので、各研究科事務担当またはホームページでご確認ください。
専攻の改組・新設は、文部科学省の審査後に正式決定となります。

発行者:茨城大学

問合せ先:各研究科事務担当部署



人文科学研究科	人文学部学務第二係	029-228-8102	http://www.hum.ibaraki.ac.jp/daigakuin/
教育学研究科	教育学部学務第二係	029-228-8208	http://www.edu.ibaraki.ac.jp/master/
理工学研究科(理学系)	理学部学務第二係	029-228-8332	http://www.eng.ibaraki.ac.jp/graduate/
理工学研究科(工学系)	工学部学務第一係	0294-38-5010	http://www.eng.ibaraki.ac.jp/graduate/
農学研究科	農学部学務係	029-888-8519	http://www.agr.ibaraki.ac.jp/daigakuin/